

県奨学金に疑問の声

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第4部 支援の現場から (6)

④

「子どもの貧困対策推進計画」の目玉の一つとして、2017年度から新設される給付型奨学金の対象が県外の「難関」大学進学に限定されていることに対し、子どもの貧困解消に取り組む支援団体や研究者は「門戸が狭すぎる」「多くの子どもが申請できない」「なぜか疑問の声を上げる」。

県教育庁教育支援課は「まだ決定していない」としながらも、「県の産業振興を担うグローバル人材の育成を主眼に制度設計している」と強調。「本来、県外大学に進む能力がありながら、仕送りが困難などの経済的理由で県内大学に進学するケースが相当数ある」と把握している。県は3月に確定した子どもの貧困対策計画で、給付型奨学金を対策の一つとして位置付けている。高専教育の機会を保障する奨学金制度等の経済的支援の項目で「県外難関大学等への進学を推進する給付型奨学金制度の新設など、県内高校生への進学を支援する取り組み」とし、5年後の21年度に支援人数100人を目標に掲げている。

「子どもの貧困対策推進計画」の目玉の一つとして、2017年度から新設される給付型奨学金の対象が県外の「難関」大学進学に限定されていることに対し、子どもの貧困解消に取り組む支援団体や研究者は「門戸が狭すぎる」「多くの子どもが申請できない」「なぜか疑問の声を上げる」。

県教育庁教育支援課は「まだ決定していない」としながらも、「県の産業振興を担うグローバル人材の育成を主眼に制度設計している」と強調。「本来、県外大学に進む能力がありながら、仕送りが困難などの経済的理由で県内大学に進学するケースが相当数ある」と把握している。県は3月に確定した子どもの貧困対策計画で、給付型奨学金を対策の一つとして位置付けている。高専教育の機会を保障する奨学金制度等の経済的支援の項目で「県外難関大学等への進学を推進する給付型奨学金制度の新設など、県内高校生への進学を支援する取り組み」とし、5年後の21年度に支援人数100人を目標に掲げている。

「難関大に限定 門戸狭すぎる」

「子どもの貧困」取材班・田嶋正雄

- 県の給付型奨学金の対象となる予定のスーパーグローバル大学**
- タイプA (トップ型)
 - 国立 北海道大、東北大、筑波大、東京大、東京医科歯科大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、広島大、九州大
 - 私立 慶應義塾大、早稲田大
 - タイプB (グローバル牽引型)
 - 国立 千葉大、東京外国語大、東京芸術大、長岡技術科学大、金沢大、豊橋技術科学大、京都工芸繊維大、岡山大、熊本大
 - 公立 国際教養大、会津大
 - 私立 国際基督教大、芝浦工業大、上智大、東洋大、法政大、明治大、立教大、創価大、立命館大、関西学院大、立命館アジア太平洋大

世帯の中高生の学習支援に取り組んでいる40代の男性は「うちにいる子は全員、申請すらできない」と嘆く。

世帯の中高生の学習支援に取り組んでいる40代の男性は「うちにいる子は全員、申請すらできない」と嘆く。そもそも、進学高校に進んだり、難関大受験に特化した予備校に通うまでに、多額の教育費が必要だ。「困難家庭から難関大受験までたどり着ける子は、屈指ではないが、多くはない」と指摘し、「教育費許や福祉系資格などの取得を目標として進学する生徒も多い。門戸を閉ざさないでほしい」と求める。

「子どもの貧困」取材班・田嶋正雄